

”下水道きれいな水へのかえりみち“

# 下水道が支える 私たちの生活。

毎年巨額の予算で整備が進められている下水道。今年も約六十三億円の予算を投じ、来年三月末の秋田市の下水道普及率は約七十三%になる見込みです。

## 見えない所で働く 縁の下の力持ち

日常生活や工場から出る汚れた水をきれいにして自然に返すため、下水道は休みなく働いています。



8月31日に秋田駅前で開催された下水道まつり。有機物分解に活躍する微生物を観察

下の図のように、家庭や工場から出た汚水は、市内に網の目のよ

うに整備された下水道管を通り終末処理場を集められています。処理場では、微生物の力も借りて汚水をきれいにし、海や川に放流し、大切な自然環境を守っています。

また、道路や住宅地に降った雨は、雨水ますから下水道管を通って川に放流されるようになっていて、街を浸水などの災害から守っています。

## 下水道使用料と受益者 負担金は大切な財源

衛生的で快適な生活を縁の下で支える下水道。施設の建設や水管の維持管理などにかかった費用は、平成十三年度で約百四十七億円でした。

これらの費用は、税金や市債な



下水がきれいな水になるまでの流れ

問い合わせ 下水道総務課 ☎(864)1411



ある家族の再就職奮闘記

## あきたさん家の物語

最終回 事業計画完成!

**前** に勤めていた会社の仲間たちと一緒に、かつての知識や経験をいかし、会社を起そうと考えた一郎さん。

市が創業を支援するために整備中の「チャレンジオフィスあきた」に入居できれば、会社を起すためのいろいろなアドバイスが受けられると聞き、ますますやる気が出てきました。

市の担当者から、入居には将来性のある事業計画が必要との説明を受け、早速勉強開始です。

**起** 業に関する雑誌や本を読み、セミナーにも参加。会社経営者に会って、商売の醍醐味や苦労話を聞いたりもしました。

「会社を起すと言っても並大抵なことじゃないなあ」。一郎さんの実感です。それでも一生懸命に頑張る姿に、「このころ生き生きしてるじゃない」と声をかける妻・花子さんでした。

**申** し込み締切りの九月末日ぎりぎりに、ようやく事業計画が完成し、いよいよ「チャレンジオフィスあきた」に入居の申し込み。

市工業労政課に事業計画書を添えて申込書を提出しました。入居が決定するには、一次審査、二次審査を通過しなければなりません。

会社時代に培った半導体に関わる機械製造のノウハウをいかし、仲間たちと話し合いを重ねて作り上げた事業計画。持てる力は出きった一郎さんには、結果がどうであれこの経験は無